

横芝の碑

(その七十三)

七百年の昔と元録年間の謎

古老の口伝と三つの碑

横芝町古川の集落は一千年の歴史を持つと語り伝えられています。そして、ここに七百年昔の庚申様が建っているのが取材して見てはどうか、というご連絡を頂いてからも大分経ちます。

確かに古老の語り伝えによって建てられたという、御本尊創立七百年記念、奉造立庚申成就之攸、昭和三十七年建立」という碑は建っているのですが、その御本尊と思われる庚申様には元録十七年(一

七〇四)四月建之と刻まれているのです。従って約二七〇年の昔という訳になります。ともあれ、元録年間の庚申様といいますが私が見た庚申様の中では一番古く、是非取材したいと思いつつも七百年前という古老の語り伝えと元録十七年が、どう結び付くかが詳かにならないことには、御紹介もできませんので、庚申様周辺の石像を探ねたり、附近の人々からのお話を纏めたりしていました。その中に庚申様の傍に隠れる様に建てられている祠形の石像が、古老の御本尊ではないか、と気が付いたのです。石祠は半分位欠け

ていますし、磨滅も烈しく、大山、日、吉、神、己、安、午、十二月等の文字が幸うじて読みとれる程度で、それも大山、安、十二月神の七文字を除いては、何れが扁なのか作りなのか、又上下の連りも判りしません。しかし、庚申様でないことは確かです。この文字から推定される神様は、滋賀大津市に総本社が鎮座する日吉(ひえ)神社ではないかと思われるのです。国史辞典によれば「日吉神社は日枝(ひえだ)神社とも呼ばれ、東宮に大己貴(おおむち)神、西宮に大山昨(おおやまさくえ)神を祭り、山王信仰の中心として俗に山王権現として名高い。延暦年間(七八〇〜八〇六)に僧最澄によって延暦寺に創設され、一山の守護神として崇られ、一時はこの神輿を担いだ僧兵が朝廷に強訴し、「鴨川の水と僧兵は如何にもならぬ」と天皇を嘆かせる程の勢力を

持ったが、元龜二年(一五七一)織田信長の比叡山攻めに遭い、社殿を焼失し云々」とあります。又安という文字と午という文字は年号だと思われるのですが、安の字の付く年号で午年といいますが、安和三年(九七〇)、弘安五年(一一八二)、安政五年(一八五八)だけですが、安政五年は元録より後になりますし、或いは安和年間とも考えられますが、七百年昔という語り伝えを尊重しますと、弘安五年、と推定するのが妥当と思われて来るのです。

庚申様信仰に押された山王権現?

こうして考えて来ますと、弘安五年午歳に建立された山王権現の祠が、江戸時代に入って庚申信仰の隆盛に押され、何時か祠が建立された昔のみが語り伝えに残り、御本尊という山王権現が庚申様と混同されて終ったのではないでしようか。うつそうと繁った椎の木は、或いはその経緯を知っているかもしれませんが、是に尋ねるよすががありません。

里人は祖先が代々信仰して来た七百年昔の庚申様と信じて崇め、祈願成就を喜び、御利益に感謝して古老の語り伝えを表現したものが七百年記念碑なのだと思います。里人の心の中には山王様であれ、

大山昨神であれ、大己貴神であれ、はたまた庚申様であれ、御先祖様が崇拜して来た昔からの神様の祠であることに変わりはないのです。邪心のない、誠の神の心は、古老の語り伝えを信じ、これを尊崇する古川の里人の真心の中に存在するのだと考えます。

○写真 ①は七百年記念の碑で、②は元録十七年建立の庚申様で奉造立庚申成就之攸、古川村善男女二世安樂、元録十七年甲申四月吉日、下方には三猿公だけが刻まれています。③半分欠けて真中に建っているのが、日吉神社(山王様)と思われる祠です。

本稿取材に当り、古川の鈴木昇さん、栗山の伊藤秀文さんの御協力を頂いたことを申添えます。

文化財審議会委員

小沢春光氏寄稿



古老の口伝と三つの碑

案内略図

